

鶴川図書館を「町田市立図書館」として存続させよう！

市は、鶴川図書館を廃止して、「本がある交流の場」（代替施設）にしようとしています。なぜ？
そして、図書館と「本がある交流の場」って、いったい何が違うのでしょうか？

鶴川図書館は
みんなにとって
どんな存在？



市内 8 図書館のうち一番小さな館ですが、商店街の中にあつて、子どもたちが遊べる広場に面しており、無料駐車場もあるので、家族連れ、お年寄り、子ども達にも人気の図書館です。団地や周辺住民にとって掛け替えのない存在であるだけでなく、商店街の活性化にも一役買っています。これからますます増える高齢者や次代を担う子どもたちには、身近な歩いて行ける場所に図書館があることはとても重要です。「コロナ後の世界」では、本や情報が手軽に得られ、市民の日常を豊かにしてくれる図書館が、今まで以上に欠かせなくなります。



そんなに愛されている
鶴川図書館なのに、
なぜ廃止すると言っ
ているの？

将来、人口が減り税収も減るので、市の施設をできるだけ少なくしようという「公共施設再編計画」が進められています。なかでも、博物館や図書館などの生涯学習施設がまずはじめに廃止の対象になってしまったのです。

確かに建物は古いね、
どうするの？

その中で、鶴川図書館は駅前図書館と近いし、建物も古くなった、近年利用も減っているという理由で、2022 年に駅前図書館に「集約」という形での廃止が打ち出されました。

駅前図書館、
ほんとに近い？

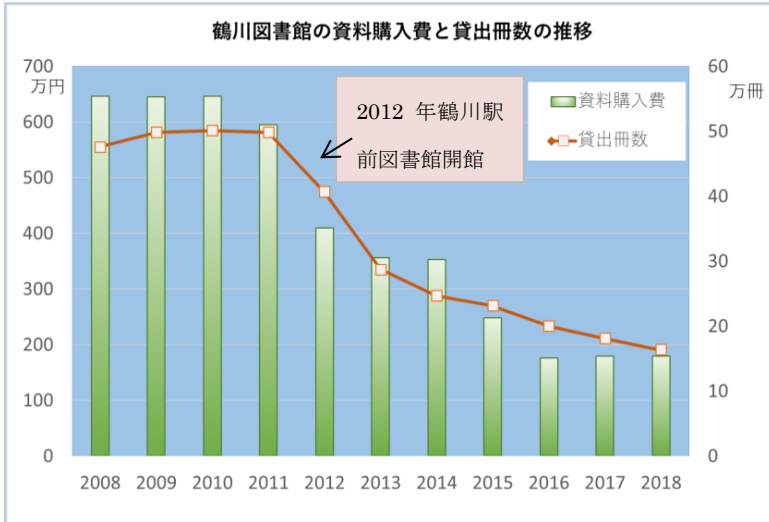
鶴川図書館の建物は UR 都市機構のもので、図書館部分を市が借り受けているのです。UR には全体を建替える計画があり、商店会の希望を入れて、市が希望すれば図書館も新しい建物にちゃんと入れると言っています。

市は、単純に図書館を中心に半径 1.5km の円を描き、円が重なるから近いと言いますが、子どもやお年寄りにとって 1.5km というのは気軽に歩いて行ける距離ではありません。さらに鶴川図書館よりも奥まった小野路町や真光寺などに住んでいる人たちにとっては、駅前図書館は 2km も 3km も離れているのです。「誰でもいつでも利用できる図書館」からは程遠くなります。これでは図書館に行くなというようなものです。

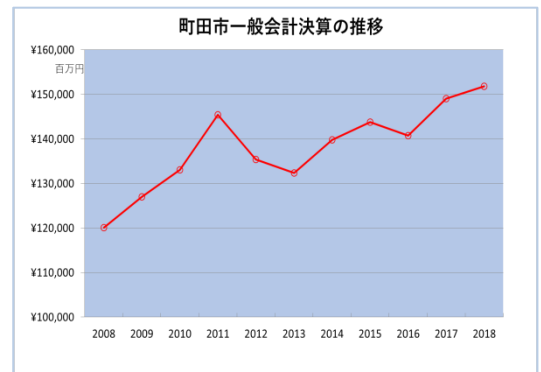
鶴川図書館の利用が減っているのはなぜ？

1 つには駅前図書館ができたからです。鶴川図書館は、駅前図書館が2012年に開館する前は、鶴川地域全体にただ一つの図書館で、毎日とても混みあっていました。だから駅前図書館を作ったのです。駅前図書館開館後は、2館で地域の利用者にサービスを提供するようになったので、2012年以降貸出数が大きく下がっているのは当然です。駅前図書館建設後の減少を閉館の理由にするのは筋が通りません。

2 つ目には、鶴川図書館だけでなく町田市内のほとんどの図書館は貸出冊数が減っているのです。その最大の原因は2010年度をピークに資料購入費が大幅に削減されたことです。下のグラフでわかるように、資料購入費の減少と貸出冊数の減少は同じ曲線をたどっています。それでも、蔵書が48,000冊しかない小さな図書館で、年間160,000冊以上の本が借りられているなんてすごいことです。

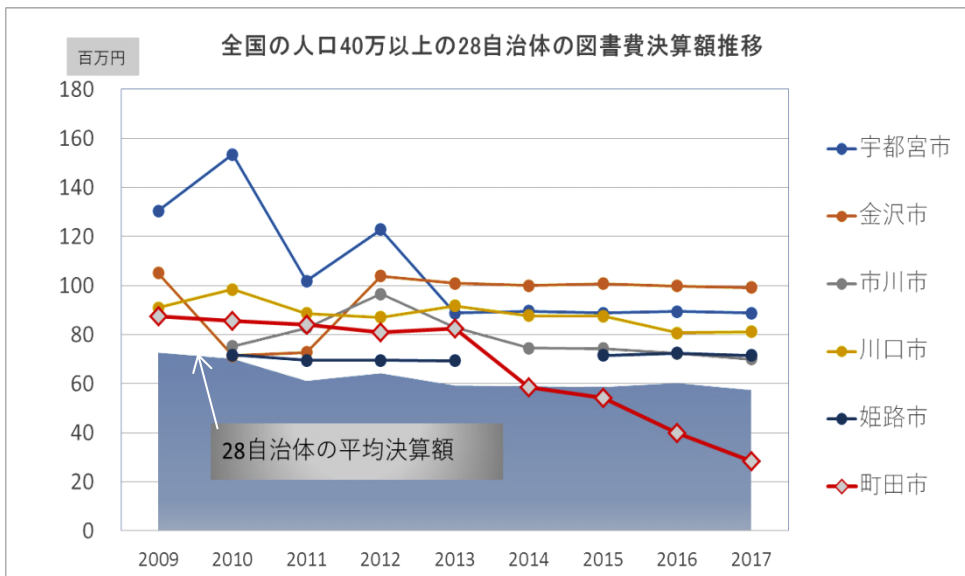


(参考) 町田市的一般会計支出は、この10年間で、20%も増加しています！



町田市全体の資料購入費が減っているというけれど、他市と比べてどうなの？

町田市の図書館は、10年前にはしっかり資料購入費を確保していたのですが、2010年をピークに削減に転じました。この8年間で、地域館を2館増やしたにもかかわらず資料購入費^(注)は下がり続け、現在は、図書購入費^(注)に限って見ても全国の同規模の市の図書館の平均をはるかに下回り、28都市中26位、1人当たりの図書費は27位(なんと79円)になってしまいました。下のグラフで一目瞭然です。



(注):資料購入費とは 図書+雑誌+新聞+視聴覚+その他紙芝居などの合計購入費。

左のグラフは、年報『町田の図書館』に掲載の「他自治体との比較」から、「図書費決算額(図書のみの購入費)」のデータにより作成。

貸出冊数が減っているからって図書館を減らすなんておかしくない？

鶴川図書館をなくさないでほしい！と、今までにどんな活動をしたの？

貸出が減っているのは、新しい本がない、人気の本の複本が少ないため予約しても何ヶ月も待たされるなど、図書館の魅力が薄れているからです。図書館の活性化は資料費とそれを動かす人と言われていて、利用者アンケートでも、毎回「図書の実質」が一番に挙げられています。図書館の貸出冊数が増えるように、資料購入費を増やして皆が読みたいと思う本を増やしたり、移動図書館のポイント・予約本の受け渡しポイントを増やしたり、といった基本的なサービスを充実させることがまず先決です。それなのに、利用が減っているから図書館を減らすというのは本末転倒です。



	町田市の動き	市民の活動
2017年度	2017年2月、「町田市5か年計画17-21」策定。6月～7月、「これからの公共施設のあり方について」市民意見募集。	秋に「鶴川図書館とさるびあ図書館をなくさないでほしい」という請願を、6000筆の署名を集めて市議会に提出し、全会一致で採択されました。
2018年度	6月に市は2図書館の集約を含めた「公共施設再編計画」を策定。10月、これを元に「町田市立図書館のあり方見直しについて(案)」を生涯学習審議会に提示し、「今後の町田市立図書館のあり方について」諮問。(しかし、肝心の地域館の「集約」や「民間活用」など見直しの中心事項は、審議会の諮問事項からも巧妙に除外し、2019年2月に教育委員会で「見直し方針」を決定。これは、市の計画策定上の大きな瑕疵である。)	<ul style="list-style-type: none"> ☆6月、「私たちはこう考える！町田市の『公共施設再編計画』-市民版-」作成(まちだ未来の会) ☆12月8日、教育委員会宛「町田市立図書館のあり方見直しに関する公開質問状」提出(まちだ未来の会) ☆12月10日、館長宛に「同あり方見直し(案)」への意見書提出(図書館協議会) ☆12月末、市長宛鶴川図書館存続の要望書署名活動開始
2019年度	秋に、「見直し方針」の具体的な実行計画である「効率的・効果的な図書館のアクションプラン」を作成、その中に2022年度から鶴川図書館を駅前図書館に「集約」、鶴川図書館の代替機能を配置、代替機能は地域団体などによる運営などが盛り込まれる。「アクションプラン」は、図書館の運営に関する計画であるにもかかわらず、図書館の諮問機関である図書館協議会に諮問せず、単に委員個人の意見を聞くのみで、その意見も反映されずに、2月の教育委員会で決定。	<ul style="list-style-type: none"> ☆4月、鶴川地域住民、商店会と共に「鶴川図書館大好き!の会」結成 ☆5月に鶴川団地商店会のバザー参加・7月に夏祭りに参加、11月に市民による鶴川図書館応援まつり開催、この問題を住民に伝え、鶴川図書館存続の市長宛要望書署名を集め、12月に市長に届ける。 ☆1月～3月の毎月、地域の人たちと語り合う「図書館カフェin鶴川」を開催。 ☆2020年2月に図書館を愛する5団体が、「アクションプラン」の見直しを求める請願を教育委員会に提出するも、ほとんど審議されずに不採択。続いて、3月市議会に請願提出。文教常任委員会で審議され、情報が不十分であることなどを理由に継続審査に。
2020年度	2022年度から鶴川駅前図書館に指定管理者制度導入、同時に鶴川図書館の閉館、移動図書館の運行見直しという図書館の根幹に関わる3つの大きな方向転換を進めようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ☆同様に6月議会でも、市民の意見を十分に聞いていないという理由で再度継続審査に。 ☆9月議会で三度目の審議の予定。 議員の皆さんに問題の理解を深めていただくために意見交換を継続中。



鶴川図書館が市立図書館であることと 代替施設となることは何が違うの？

市立図書館なら

こんなサービスをだれでも受けられます

- ★本や雑誌の閲覧・貸出。
- ★予約・リクエストサービス⇒市内図書館にある本だけでなく、公立図書館同士の相互貸借の機能を使って、都立図書館、多摩地区の図書館を中心に、23区の図書館、大学図書館等にある蔵書も鶴川図書館を通じて借りることができます。
- ★館内の検索機(OPAC)を使い自分で全館の蔵書を調べられます。
- ★資料を利用して調べ物をするができます。
- ★レファレンスサービス(司書職員に相談したり、必要資料を探してもらおう等)を受けられます。
- ★司書職員がいて、日々、季節や行事などに合わせて、書棚に並べる本を入れ替えたり、見やすく、探しやすいように並べているおかげで、使いやすい図書館になるのです。

市が考えている代替施設は

本がちょっとある住民の交流の場？！

- ▲寄付などで集められた本、図書館で除籍された本を、読んだり借りたりできるけれど…町田市立図書館の蔵書を借りたり、町田市の図書館にない本を取り寄せてもらったりできなくなります。
- ▲運営は、地域団体等に任すことを想定しているようですが、各新聞・雑誌や読みたくなる本の収集などが、ちゃんと責任を持って維持できる体制が作れるのでしょうか？そこで働く人の費用はどうなるのでしょうか？
代替施設をどのようなものにするかについて、市民の声を聞くというけれど…？
- ▲図書館に不可欠な図書館の専門家、司書がいなくなってしまうのなら、図書館ではありません。
- ▲市立図書館ではなくなるということは、市民にとって大きな損失です！

鶴川図書館を「市立図書館」として存続させましょう！

今後の町田市立図書館の目指すべき姿(2019年1月に生涯学習審議会が出した「答申」より)

- (1) あらゆる市民が利用しやすい図書館
- (2) 子どもの読書活動の充実につながる環境整備
- (3) 地域のコミュニティ形成を支援する図書館
- (4) 地域の課題や社会状況の変化に対応した運営

こんな「図書館の目指すべき姿」を掲げておきながら、今回のような図書館を減らすという計画がどうしたら導き出されるのか、どう考えても納得がいきません。市民が心豊かに暮らすために、そして子どもたちが賢く育つためには、町田市的一般会計予算の配分を少し見直して、「賑わいづくり」のための重点事業よりも、誰もが利用できて、市民の暮らしを支える基本施設にこそ、手厚く予算を振り向けるべきではないでしょうか。それが、結果として「誰もが住みたくなる町田」を創り出すことになるのだと思います。

市が掲げる「地域のコミュニティ形成を支援する図書館」は私たちも賛成です。でもそのあり方として、人件費削減のために図書館の運営を市民に任せるようなことは全く容認できません。図書館の資料・情報提供という基本的な機能を中心に、中高年の方々には、新たな仲間づくりやリタイア後の再学習の場として、子どもたちにとってはおはなし会やブックトークなどを通じて、本の魅力を知り、読書という一生の宝物を手にする場として機能する。来館する子どもたちだけでなく、地域の保育園、幼稚園、学校にも出向いて子供たちと本を結びつける。地域の図書館には、そんな大切な役割があるのです。そこに司書の存在は欠かせません。こうした地道な活動の中から、本当の意味での市民協働も生まれてくるでしょう。

鶴川図書館の市立図書館としての存続のために、皆で力を合わせて頑張りましょう！

鶴川図書館大好き!の会・町田の図書館活動をすすめる会・町田の学校図書館を考える会・まちだ未来の会
連絡先：090-1863-5174 e-mail:suzumasa3964@gmail.com 鈴木真佐世